



「関西ブロックSKYフォーラム2018」開催

～「きっちり工事運動」の向上を目指して～



情報通信エンジニアリング協会 関西支部

はじめに

2018年12月18日、関西支部による「関西ブロックSKYフォーラム2018」が建設交流館（大阪市西区）において開催されました。

本フォーラムは会員各社が日常業務の中で安全性・効率性を目指し積極的に実施している「SKY運動」の成果を発表し、啓発・水平展開を図ることを目的としております。

開会にあたり、情報通信エンジニアリング協会 高島関西支部長（写真1）より、「当初の予定では、9月27日に開催予定としていましたが、今年は台風や地震等により非常に被害甚大となり、時期をずらさせていただきました。安全が一番大切に我々にとって最初に学ぶべきこと、また最後まで守るべきものと思っており、年末で非常にお忙しい中ではございますが本日参集させて

いただきました。

この「SKY活動」は、昭和58年から始まり、35年以上とかなりの歴史があり、今も通じるようなワード略号になっています。我々は「S：創造」的な業務をしており、また中心にエンジンとなる「K：改善」を、全社的にも職場・会社問わず一生懸命に取り組んでおり、それを持って「Y：躍進」していくということで非常に良い命名をされて、脈々と日々実践的な活動として取り組んでいます。

本日は、もう一度足元をみつめて固めるということで安全とは何か、さらには、事故は絶対出さないという覚悟を持つ、そういう日になればと思います。」との挨拶がありました。

続いてNTT西日本 関西事業本部 越智設備部長様（写真2）より「本日は、歴史のあるSKYフォーラ

ムにお招きいただきまして本当にありがとうございます。

今年は漢字一文字も「災」ということで、災害が多い年で地震・豪雨・台風により、我々の通信設備もかなりの被害を受けましたが、皆様の西日本全域における支援本当にありがとうございました。特に台風21号は、関西に甚大な被害をもたらす故障申告も結果的に4万件になり、関西としては1995年の阪神淡路大震災以来で他のブロックから応援をいただいた次第です。

また7月の集中豪雨では、非常に多くの方がお亡くなりになりました。この事により防災士資格についての話をしていたことがありましたので紹介します。防災士というのは、1995年阪神淡路大震災を機にできた民間資格で民間のボランティアが円滑にいくように作られた資格です。「自助・共助・公助」という3つの柱があり「自助」とは自分自身が安全でないとボランティアができないということ、次に「共助」は何かあった時に周りの人と連携して被災者を助ける。最後に「公助」とは、自治体と連携して被災者を守るということです。この観点で見た際、7月の集中豪雨では自治体の呼びかけもあったでしょうし、周りからの呼びかけもあったでしょう。しかし、結果的に自らは大丈夫だろうという甘い考えがあったのではない



写真1 ITEA・関西支部
高島支部長 開会挨拶



写真2 NTT西日本 関西事業本部
越智設備部長様 来賓ご挨拶

かと、その結果このような被害が起きてしまったのではないかと話でした。

この話を聞いたとき、我々の安全に対する取組みも一緒ではないかと思いました。会社や組織で色々な安全の活動や取組みがあります。また日々のチームや班でKYなどをやっ

ております。でもやっぱり最終的には自分自身で考え、行動をするというところになります。常日頃から安全に対する取組みを自身のことと考えて行動できるような取組みを行っていききたいと思います。

本日も色々な取組みを聞かせてもらえるということで楽しみにしてお

ります。このフォーラムを通じまして、情報通信エンジニアリング協会様それから通信建設会社各社様の益々のご発展を心から祈念いたします。」とのご挨拶をいただいた後、本フォーラムが開会されました。

SKY表彰式

表1 2018年度各社別提案件数

(単位：件)

協和エクシオ	ミライト・テクノロジーズ	ミライト	日本コムシス	日本電通	合計
5	3	2	1	1	12

年間最も多くのSKYの取組みを行った会社に対して「SKY表彰」を行いました。

2017年10月から2018年9月までの間でNTT西日本様へのVE提案が5件と、5社の中で最多提案件数であった(株)協和エクシオ関西支店が表彰され高島支部長より感謝状と記念品が授与されました(表1・写真3)。



写真3 SKY表彰
(株)協和エクシオ 関西支店

安全表彰式

当支部安全パトロールにおいて、安全の鉄則を遵守するとともに、安全に対する取組活動が他の模範となり、極めて優れているとして(株)ミライト・テクノロジーズ協会の山忠建設(株) 辻本 和也班に高島支部長より表彰状と記念品が授与されました(写真4)。



写真4 安全表彰
山忠建設(株) 辻本 和也班

SKY発表会

各社でのSKY活動として最も優秀であったものについて、1テーマ選出し発表を行うとともに、NTT西日本グループ様代表としてNTTフィールドテクノ 関西支店様からも発表を行っていただきました(写真5～8・表2)。

NTTフィールドテクノ 関西支店様の発表内容は、『現場KYにおける安全意識向上に向けた取り組みについて』というテーマで、屋外作業での人身事故の発生に伴い、2度と



写真5 司会
(株)ミライト 浦山 尚輝氏



写真6 発表会模様

人身事故を発生させないために、①「現場KYの実施手順を見直し！」として、『危険予知』と『安全確認』に区分けして現場KYを実施し社員1人ひとりが感受性を高め、自らが安全（危険）について考える習慣・意識を醸成する。②「現場KYの承認側を体制強化！」として、現場からKYシステムに送られるKYに対して承認者の専任化により、迅速に確認できるバックヤード体制を構築し、『2WAY確認』の実効性と安全確保、安全意識の向上を図る。この施策により社員の安全意識の向上に取り組んでいるが、「安全に終わりはない」と感じており、時の経過によるマンネリ化・形骸化が進んでくることから、「言い続けること」、「継続すること」が大切なことだと思っ

て引き続き取り組んでいくとの内容でした。

その他の発表につきましても、各種工具等の開発・改良等、素晴らしい内容で、施策の水平展開や今後の積極的なSKY活動への刺激にもなりました。

おわりに

発表終了後、高島支部長より発表各社の代表者に記念品が贈呈され（写真9）、(株)協和エクシオ 原 智博リーダーの発声で関西支部の安全スローガン「まず安全 工夫を活かそう 知恵と技 ヨシ!!」を全員で唱和（写真10）した後、主催者を代表してITEA 裕常務理事より「本日は、NTTフィールドテクノ様

を含め6件の発表で4件が安全に関するものであり、やはり我々は常に危険と隣り合わせの環境で仕事をしているということを改めて感じた。現在、安全を確保するためのツールもどんどん導入されているが、ツールも最終的にはやはり現場で作業される方々がいかにそれを安全に使うかということと、こういった意識でどういった感覚で仕事をされるのかということが、事故を防ぐ最後の歯止めだと思う。慣れ・油断が生じることによって事故発生につながるの、そういったことを起こさないためにも、「まあいいか」「多分、大丈夫だろう」という思いを持たないような企業文化・風土を醸成し、現場で作業をされる方々が安心して作業ができる、そういった環境を作って

表2 発表テーマ一覧

発表テーマ	発表会社名	発表者	PC操作者
★『光シンプル化への挑戦!』	株式会社ミライト・テクノロジーズ	内田 一哉	合田 直樹
★『電動工具に関する人身事故の撲滅』 ～電源部の緊急停止装置の考案～	株式会社ミライト	山本 茂基	宮脇 裕子
★『ケーブルカルテの効果と今後』	日本コムシス株式会社	和田 朝明	尾田 和彦
★『無事故5000日達成を目指して』 ～さらなる意識改革～	日本電通株式会社	小林 正幸	濱本 一騎
★『音声・LED表示付工事案内スタンドの考案』	株式会社協和エクシオ	島袋 政孝	福田 竜治
★『現場KYにおける安全意識向上に向けた取り組みについて』	株式会社NTTフィールドテクノ	中園 賢一	内山 修司



写真7 発表会模様



写真8 (株)NTTフィールドテクノ様 発表会模様

いきたいと改めて今日は感じた。」との挨拶があり閉会しました（写真11）。

今回の大会は、279名の参加で無事終了することができました（表3）。

本大会に大変お忙しい中ご臨席くださいましたご来賓・NTTグループの皆様にご挨拶申し上げますとともに、大会の諸準備、運営にご協力いただきました関係各位に対して心から厚く御礼申し上げます。

表3 大会概要

大会日時	2018年12月18日14:00~16:30		
場 所	建設交流館（大阪市）		
参 加 者	ご来賓・NTTグループ	24名	279名
	(一社) 情報通信エンジニアリング協会・会員会社	255名	



写真9 高島支部長と発表者の皆様



写真10 スローガン唱和
(株)協和エクシオ 原 智博氏



写真11 ITEA 裕常務理事の閉会挨拶